

R6年度学校評価

「①かなりあてはまる②あてはまる③あまりあてはまらない④あてはまらない」の4項目で評価。数値は、肯定的評価(①②)した人数/全体の人数。

主体的に学ぶ(知)			1学期末	2学期末
1	児童	今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	23/25	19/24
	保護者	お子さんは、今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	22/24	17/20
	教職員	子供たちは、今まで学習したことや経験したことを使ったり、友達と相談したりして、自分で考えようとしている。	7/7	7/7
2	児童	自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	23/25	19/24
	保護者	お子さんは、自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	19/24	18/20
	教職員	子供たちは、自分の考えと比べて友達の発表を聞き、友達の意見につなげて自分の考えを発表しようとしている。	5/7	6/7
3	児童	学習で「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、発表したり、ノートに書いたりしている。	22/25	21/24
	保護者	お子さんは、学習して「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、家庭で話している。	22/24	18/20
	教職員	子供たちは、学習して「分かったこと」「できるようになったこと」や、学習で楽しみにしていることなどを、発表したりノートに書いたりしている。	7/7	7/7
4	児童	タブレットPCを活用して学習する際に、自分の考えを生かしたり深めたりしている。	24/25	20/24
	保護者	お子さんは、タブレットパソコンを活用した学習で自分の考えを生かしたり、深めたりしていることを家庭で話している。	22/24	14/20
	教職員	子供たちは、タブレットパソコンを活用した学習で自分の考えを生かしたり、深めたりしている。	7/7	7/7
	教職員	自分は、子供たちがタブレットパソコンを活用できるような授業を意図的に行っている。	7/7	7/7
5	児童	タブレットPCを活用することは、将来に役立つと思う。	24/25	23/24
	保護者	タブレットパソコンを活用することは、お子さんの将来に役立つと思いますか。	24/24	20/20
6	児童	学校の先生は、自分で考えたり話し合ったりできるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活に生かせるような課題を取り上げたりするなど、授業の内容を考えてくれている。	23/25	19/24
	保護者	教職員は、子供たちが自分事として学習に取り組むことができるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活場面を意識した課題を設定したりするなど、授業を工夫している。	23/24	20/20
	教職員	自分は、子供たちが自分事として学習に取り組むことができるように、具体物や体験活動を取り入れたり、生活場面を意識した課題を設定したりするなど、授業を工夫している。	7/7	7/7
7	児童	家の人は、自分(子供)の学習に関心を持ち、進んで学習に取り組むことができるように、助言したり、宿題に取り組む様子や内容等を見たりしてくれている。	24/25	24/24
	保護者	家庭では、お子さんの学習に関心を持ち、家庭学習が自ら学ぶ学習になるように、助言したり、宿題に取り組む様子・内容等を見届けたりしている。	23/24	19/20
	教職員	自分は、子供たちが学習に関心を持ち、自ら家庭学習に取り組むことができるように、家庭学習のしかたや内容について、助言したり、良い取り組みを紹介したりしている。	7/7	7/7
	教職員	保護者は、子供たちが学習に関心を持ち、家庭学習が自ら学ぶ学習になるように、助言したり、宿題に取り組む様子・内容等を見届けたりしている。	6/7	7/7

考察(知)

○「項目1」について1学期と比べ、児童の肯定的評価が特に高学年が減少している。内容も複雑になってなかなか自力で考えることが難しくなってきたと考えられるので、ヒントカードなどを利用して、少しでも一人学びの充実が図れるように工夫していきたい。「項目2」の肯定的評価は1学期と比べ、児童は減少しているが保護者は増えている。自分の考えを発表しているが、友達の意見につなげられていないと感じている児童がいると考えられる。子供たちに自分の考えとの共通点を見い出させたり、関連付けさせりながら話し合いを深めさせていきたい。

○「項目3」の児童・保護者ともに1学期とほぼ同様である。学習の最後の「振り返り」が子供たちに定着してきた結果だと考えられる。今後も、「次につながる自分の学びの振り返り」となるように、教師が子供の学びを価値付け紹介したり、よりよい振り返りを示したりすることで、自分事として学習を振り返ることができるようにしていきたい。

○「項目4, 5」について昨年度同様、タブレットの必要性を児童・保護者ともに感じていことが分かるので、今後も研修等で活用方法を学んでいきたい。しかし、1学期よりも児童がタブレットについての学習を家庭で話している割合が減っている。タブレットの使用が当たり前になってきて、児童が使用している様子を伝えなくなったように思われる。学校として発信していくことも考えていきたい。

○「項目6」の項目は、児童・保護者の肯定的評価は高いが、否定的な意見が1学期に比べ増えている。課題の設定が児童の実態と合っていないときがあると考えられるので、カリキュラム・マネジメントをしっかりと行い、児童の生活の実態に合わせた単元構想を考えたり、児童が興味をもてるような課題を設定したりしていきたい。

○家庭学習に関する「項目7」は、肯定的評価が高い。多くの保護者が子供の学習に関心を持ち、自ら学ぶ家庭学習となるように子供の支援をしてくださっている。学校と家庭と連携して子供たちを育てていくことは大切なことなので、今後も個別に連絡を取り合い、学校の様子を伝えたり家庭での学習状況を確認したりしていきたい。

自分らしく輝く(徳)			1学期末	2学期末
8	児童	自分や友達のよいところや頑張っていることを見付け、きらっとカードに書いたり発表したりしている。	24/25	21/24
	保護者	お子さんは、自分や友達のよいところや頑張っていることを、家庭で話している。	23/24	17/20
	教職員	子供たちは、自分や友達のよいところ・頑張っていることを見付け、書いたり発表したりしている。	7/7	7/7
9	児童	学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わっている。	24/25	22/24
	保護者	お子さんは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	23/24	19/20
	教職員	子供たちは、学習や遊びなどの場で、進んで友達と関わろうとしている。	7/7	7/7
10	児童	自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、明日葉カードの目標にして粘り強く取り組んだりしている。	22/25	22/24
	保護者	お子さんは、自分の生活をよりよくしようと、生活を見直したり、目標に向かって粘り強く取り組んだりしている。	21/24	18/20
	教職員	自分は、子供たちの生活をよりよくしようと、生活を見直させたり、目標に向かって粘り強く取り組むことができるように、励まし支援したりしている。	7/7	7/7
11	児童	学校の先生は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認めたりしてくれる。	23/25	20/24
	保護者	教職員は、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	23/24	20/20
	教職員	自分は、子供たちができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	7/7	7/7
12	児童	家の人は、できること・得意なことが増えるように励ましたり、頑張ったことやよい行いを認めたりしてくれる。	24/25	24/24
	保護者	家庭では、お子さんができること・得意なことを増やし、自分のよさを見付けられるように、励まし支援している。また、よいところを認めている。	23/24	19/20
	教職員	家庭では、子供たちのできること・得意なことが増えるように、励ましたり支援したりしている。また、子供たちのよいところを認めている。	7/7	7/7
考察 (徳)	<p>○「項目8」は、1学期と比べると肯定的評価は多いが、否定的な評価が若干増えている。活動としては、「ほめほめウイーク」を設け、「きらっとカード」を使って、友達のよさをみんなで見付けたり、自分のよさを友達に認めてもらったりした。また、毎月一回の「自分を見つめる日」には、「自分らしさの花」づくりをして、自分の頑張りを認める機会にした。しかし、なかなか自分や友達のよさに気付けない児童もいるので、教師側からの働きかけを意識していきたい。</p> <p>○「項目9」は、児童と保護者はともに1学期とほぼ同様の肯定的な評価である。35分間の昼休み時間にボールや固定遊具を使った外遊びを楽しんだり、図書室で本を読んだりなど、思い思いに過ごす姿が見られている。さらに今年度は、全校代表委員会を経て、全校遊びを実施した成果であると考えられる。今後も、学期に1回の縦割り遊びや全校遊びを計画・実践することで、多くの友達と関わるといふ小規模校のよさを発揮できるようにしていきたい。</p> <p>○「項目10」は、児童と保護者はともに1学期とほぼ同様の肯定的な評価である。明日葉カードに掲げた目標を達成しようと努力している子供たちの頑張りが保護者にも伝わっている表れである。今後も、学校からの発信力を高めることで、子供たちのよい表われや頑張りの様子を学校と家庭で共有できるようにしたい。</p> <p>○1学期に比べ、児童の「項目11」における肯定的に評価が減少している。「項目12」については、1学期とほぼ同様である。学校として児童の自己効力感を高めるためにいろいろな取り組みを行っているが、より一人一人を見て声を掛けていく必要がある。それとともに、学校でのよい表われや頑張りの様子を積極的に家庭に伝え連携することで、子供たちが自分に自信をもち「自分らしく輝く子」を目指していきたい。</p>			

健やかな心・体をつくる(体)			1学期末	2学期末	
13	児童	毎月の挨拶のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	22/25	21/24	
	保護者	お子さんは、自分から進んで挨拶している。	19/24	17/20	
	教職員	子供たちは、毎月の挨拶のめあてを意識して、自分から進んで挨拶している。	7/7	7/7	
14	児童	学校では、自分らしく、元気に生活している。	22/25	21/24	
	保護者	お子さんは、自分らしく、元気に学校生活を送っている。	23/24	19/20	
	教職員	子供たちは、自分らしく、元気に生活している。	7/7	7/7	
15	児童	朝・昼休みや体育の授業、チャレンジ運動では、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	23/25	21/24	
	保護者	お子さんは、体を動かすことを楽しみ、目標をもって運動に取り組んでいる。	24/24	19/20	
	教職員	子供たちは、朝・昼休みや体育の授業、チャレンジ運動では、体を動かすことを楽しんだり、自分の目標をもって運動したりしている。	7/7	7/7	
16	児童	毎日、早ね・早起きをしたり、朝ごはんを欠かさず食べたりしている。また、メディアについての約束を守って生活している。	21/25	19/24	
	保護者	家庭では、早ね・早起きを呼び掛けたり、朝食を食べさせたりしている。また、メディアについての約束事を決め、守らせている。	23/24	20/20	
	教職員	子供たちは、毎日、早ね・早起きをしたり、朝ごはんを欠かさず食べたりしている。また、メディアについての約束を守って生活している。	7/7	7/7	
考察 (体)	<p>○「項目13」の肯定的評価が、児童は1学期とほぼ同様で、保護者は増加している。学校では、毎朝正門などに教師が立って挨拶したり、「あいさつ週間」の取り組みを通して職員室や各教室への挨拶を習慣とする児童が増えたりして、朝の校内には挨拶の声が響き渡っていた。今後は、挨拶の取り組みが消極的な児童に重点的に声を掛け、全校児童の気持ちのよい挨拶の声が響く学校を目指していきたい。</p> <p>○「項目14」の肯定的評価は、児童、保護者ともに1学期とほぼ同様である。これは、日頃の教育活動や児童理解の成果だと考えられる。しかし、その反面否定的な評価の児童も若干名いる。その子供たちの評価が変わるよう個別の支援に心掛け、全児童が楽しいと思える学校にしていきたい。</p> <p>○「項目15」の肯定的な評価は児童・保護者ともに1学期とほぼ同様である。昼休みには運動場で遊ぶ子が多く見られ、チャレンジ運動で行っている種目にも、多くの子供たちが楽しみに取り組んでいた。しかし、運動に苦手意識がある児童もいるので、そんな児童でも運動を楽しめるように今後も活動を工夫していきたい。</p> <p>○「項目16」の肯定的評価は、保護者が1学期同様高い評価であるが、児童は若干減っている。学校では、養護教諭を中心に行っている「すこやかチェック」で児童への啓発を行っている。「早ね」「朝ごはん」「メディア」とテーマを月ごとに絞り1週間実施する中で、すこやかチェックに「げんきポイント」を設定し、称揚することで目標達成目指して努力している様子がうかがえる。しかし、まだメディアについては、遅くまでYouTubeなどの動画を視聴したりゲームをしたりといった生活の乱れが高学年だけでなく低学年にも見られ、朝気持ちよく起きられない・授業に集中できないことへつながっている。今後もメディアとのよりよい付き合い方を子供自身が考える機会を設けていきたい。</p>				

学校運営・学校体制・PTA等			1学期末	2学期末
17	児童	先生は、いじめがないように、話を聞いてくれたり、助けたりしてくれる。	23/25	21/24
	保護者	教職員は、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいる。	24/24	19/20
	教職員	自分は、いじめ未然防止に努めている。	7/7	7/7
18	保護者	学校は、お子さんのことについて相談がしやすい。	23/24	19/20
	教職員	自分は、子供たちにとってよき相談相手となったり、保護者の要望に適切に対応したりしている。	7/7	7/7
19	保護者	家庭では、便りやホームページ、その他の方法で、学校の情報を得ることができている。	24/24	20/20
	教職員	自分は、学校の情報や子供の様子を、適切な方法で保護者や地域に発信している。	7/7	7/7
20	保護者	学校は、子供たちの安全確保のための取組を十分行っている。	24/24	20/20
	教職員	自分は、子供の安全確保のための取組が十分にできている。	7/7	7/7
21	児童	午前中4時間・午後2時間授業をするより、午前中5時間・午後1時間授業の方がよい。 (低学年⇒午前中4時間・午後1時間授業より、午前中5時間・午後は授業なしの方がよい。)	17/25	23/24
	保護者	学校は、午前中5時間授業のよさを生かして、教育活動を行っている。	22/24	19/20
	教職員	午前中5時間授業は、教育的効果がある。	7/7	7/7
考察	<p>○「項目17」は、いじめ防止の取り組みとして今年度から新設した設問である。肯定的な評価は、児童・保護者ともに高い評価を得ている。これは、学校として一つ一つの出来事に丁寧に対応してきた成果であると考えられる。しかし、まだ否定的に評価している児童・保護者が一定数いる。全員が安心して学校生活を送ることができるように、一人一人を大切に、寄り添いながら対応していきたい。</p> <p>○「項目18」は、1学期とほぼ同様の肯定的な評価を得た。教育活動について、保護者の皆様には御理解・御協力をいただき、大変感謝している。今後も、学校と家庭が思いを共有することで、社会に開かれた教育課程の実現を図っていきたい。</p> <p>○「項目19」は、1学期同様に100%の肯定的な評価を得た。便りやホームページのブログなど様々な方法における積極的な情報公開の成果だと考えられる。今後も情報発信の方法も模索するとともに、個別に保護者に児童の様子を伝えることも心掛けていきたい。</p> <p>○「項目20」の項目においても、1学期同様に100%の肯定的な評価がいただけた。急な天候の変化などがある中、日頃の丁寧な対応の成果であると考えられる。今後もこの評価を継続できるように、子供の安全が第一である学校として、校内の安全管理や登下校の見守り等、十分気を配っていきたい。</p> <p>○午前中5時間授業の体制となって6年目を迎えた。午前中5時間授業のよさとして、「午前中に集中して学習ができる」「6時間授業の日も、午後1時間の授業なので気持ちが楽」「下校時刻が他校より早いので、放課後の自分の時間が多い」「昼休みの時間が長いから、友達と遊べて楽しい」などを夏休み明けに具体的に児童に説明したことが功を奏し、児童の肯定的評価が増えた。しかしその一方で、否定的な意見も見られる。特に休み時間が5分しかないときの対応に困っているという意見が見られた。これについては、休み時間の過ごし方を改めて考えさせるとともに、児童や保護者に午前中5時間授業のよさとして自分たちの放課後の活動にゆとりがもてることや、教職員の出張によりクラスを空けることがあっても、自習にすることは少なく、学習時間をきちんと確保できることなど、午後の授業が1時間という午前中5時間授業の強みであることなど、デメリットよりもメリットの方が多くをアピールしていきたい。</p>			

保護者の方から「午前5時間授業」に対する意見がありましたが、校内で検討し、上記の理由により継続していきたいと考えています。今後も子供たちに休み時間の過ごし方を指導したり、学習時間を確保するよう心掛けたりしていきます。